

陽の里

発行 平成29年10月1日



社会福祉法人 新生会
総合ケアセンター サンビレッジ
〒503-2417 岐阜県揖斐郡池田町本郷1501番地
TEL (0585) 45-5545(代)
URL <http://www.sun-village.jp/>

No.133

テーマ 響コンサート

▶ サラマンカホールで響コンサート



新生会の歴史や歩み

初代の思い〜現代に至る迄



新生会元監事

五十川 龍 男

この度、平成10年から約20年務めさせて頂きました新生会の監事を任期満了に伴い退任させて頂くことになりました。

私のサンビレッジとの出会いは、まだサンビレッジが出来る前、初代理事長の今村勲先生が開業医として町内を自転車で駆け巡りながら往診をしておられるところに遡ります。

先生は当時（昭和40年代後半）の寝たきり老人の状況と、その家庭の困惑を往診の度に感じておられ、何とか、お年寄りの極楽を創りたいと願っておられました。

まだ全国的にみても老人ホームが少ない時代、私は池田町の住民課長をしておりました関係で、先生と一緒に石川県、愛知県、東京等の施設に視察に訪れました。

視察に訪れた場所は、人里離れた辺鄙（へんぴ）な所に多くありましたが、先生はこれまで社会を支えてこられたお年寄りの生活を人の賑わいのある、また病院も役場も近い、町の中心部で実現したいと考えられ現在の場所にサンビレッジ新生苑を開設することとなりました。

年月が経ち、私もサンビレッジとの出会いから40年以上が経ちました。この間、理事長を始めスタッフの皆さんは常に利用者本位、住民本位で介護の質を高める為に尽力され、制度にない要望に対しても果敢にチャレンジされる等、監事と言う立場ながらも常に感服しておりました。こうして無事に役割を全う出来たのも皆様の協力があればこそであったと実感しております。優しい気遣い、さりげない配慮を頂きましたことを改めて感謝申し上げますと同時に、新生会の益々の発展を心よりお祈り申し上げたいと思います。

「響コンサート 実行委員を終えて」

サンビレッジ岐阜 高津 妙

今回、たくさんの方のお力添えにより、サラマンカホールの700余席は満席となり、素晴らしきコンサートが開催できたことを心からお礼申し上げます。

福祉と音楽、一見まったく違う分野のようですが、何か取り組むうえで「業種」というものは、あまり関係ないものだと感じました。それは当日のコンサートホール、そしてご協力くださったスタッフとボランティアの方々の姿が証明していました。

任された人たちがどんな想いを持ち、どこを目指すのか。何事も目指すところを明確にして想いをひとつにしていけば、必ずできる、実現すると感じました。想いがあれば、次に何をすべきかがみえてきます。一見物事がうまく進まず迷うことさえも、その経験から教わることで数多く含まれていると感じます。



▲ストリング響カルテットと一緒に

新生グループを引っ張ってこられた先輩方の豊富な知識や見通し

をもち物事を進めていく力、団結力を、とても近くでみせていただきました。

演奏後に響のメンバーの一人が「曲を仕上げる時、それぞれが意見を心置きなく言い合って、納得しながらいいものを作っていくんです。」と話されました。とても印象に残る言葉でした。素晴らしい演奏を聴かせてくださった響の皆様、心から感謝します。

振り返る「コンサート成功の秘訣」

サンビレッジ岐阜管理者

川瀬 由起子

思い起こせば、昨年の冬の懇親会の流れで、サラマンカホールでコンサートを開催する事になり、私を含むスタッフは正直、困惑しました。また、同時にこの偉業をやり遂げたい、ワクワク感を覚え、挑戦することを楽しめたと思えます。

また、音楽の世界の方々と交流すること、お客様（聞き手）と演奏家の両方に配慮すること等は、今までの私たちのチーム（職場）では経験のない事ばかりで、分からない事が少しずつ理解できる喜びもありました。

大きな目標であった「ホール満席にしたい」チケット販売をする営業活動は、医療福祉分野において苦手とする事でした。勇気を出して声をかける、自分たちが主催するコンサートを説明することは、失敗しながら何度も作戦を練りながら進めました。



▲励まし合いながら、結束を高め努力した実行委員メンバー

当然、成功の裏には、悩みや苦労もあり、実行委員メンバーは、励まし合いながら、結束を高め、不安を胸に当日を迎えました。緊張の中、大勢の観客、素晴らしい音楽を目の前に感動し、涙しました。達成感と満足感を皆で共有できた瞬間でした。

当時を振り返ると成功の秘訣は、①挑戦することを楽しむ②分からない事、出来ない事をオープンにする③チームで失敗と成功を一緒に共有する事だと思えます。これからも、この秘訣を胸に様々な事に挑戦していきたいと思えます。

「しんせい語録」の読み解き

当たり前のごとに

専門性が潜んでいる

サンビレッジフーズ

松岡 美穂

サンビレッジでは、在宅の高齢者にお食事を届ける配食サービスを行っており、栄養士として窓口を担当しています。窓口では利用者の方からの電話対応で利用を希望される方へはご自宅に訪問し、普段の生活や食生活の様子聞き取りをして利用につながります。最近、退院後に自宅に戻られる際に療養食を希望される方も多く、訪問時に血液検査の結果を見せてくださったり、食事の作り方を尋ねられたりお弁当を届けるだけでなく、栄養士の訪問や相談も当サービスの大きな特徴です。私は5年間の施設の食事調理や入所者の栄養管理、地域での健康教室に携わってきました。現場での経験が現在窓口として相談される際のアドバイスに役に立っています。また、食事を届けるのは配達員です。



▲電話対応で栄養管理のアドバイス

そのため、ご利用者と直接接する配達員の気づきを大切にしています。普段から配達員とのコミュニケーションを密に行い、どんな些細なことでも配達員が報告や相談をしやすい関係づくりを心がけています。配達員の気づきが、ご利用者の認知症の進行や健康状態の低下等の発見につながります。お弁当は個人で配りますが、私たちはチーム（組織）で活動しています。職員間、他職種、ご家族と連携を取り、ご利用者の在宅での健やかな生活を支えていきたいと思えます。



しんせい語録

新生グループには日めくりカレンダー「しんせい語録」があります。語録には介護現場で感じたことや学んだことへのヒントが掲載されています。

『もの言わぬ』

心の声を感じたい。』

(株)新生メディカル 岐阜営業所

村田 美香子

Kさんはアルツハイマー型認知症の女性で岐阜市を終の棲家と決め4年前、夫婦で引越してみえました。

Kさんは、早いスピードで認知症が進行し自分の想いを正確に言葉にする事が難しくなっており、「私はバカになった」が口癖でした。しかし今でもヘルパーと一緒にご主人のために味噌汁を作るなど妻としての役割を果たしてみえます。

私は、時々Kさんと買い物に行く途中、ゆっくりKさんの手を握りながら真っ青な空に向かって深呼吸をします。Kさんの心の声を感じようと思います。神経を集中してKさんの想いを理解しようと思います。そうしているとKさんは、私の顔を見て一言「ありがとう。」



▲お互いに思いを伝えようと懸命に取り組んでいます

「と言いつつ私の手を握り返してくれました。心が通じ合えた瞬間でした。たとえ自分の想いを人に伝える事が難しくなっても、私達専門職が、その人に触れ、表情を観察し想いを汲み取ることで信頼関係ができ、その人が心地よいと感じる時間を届ける事ができると確信します。これからも利用者の心の声に耳を傾け続け、寄り添って行きたいと思えます。」

vol.18

「サンビレッジの仲間たち」

利用者・地域の皆様が

楽しめる環境づくりを目指して

環境整備担当 森 英治

外部環境整備を、平均年齢七十歳の私達六名が担当しています。

A班B班二チームが交替で屋外作業（庭園樹木の管理・飼育・設備清掃修繕・行事準備等）を担っています。庭園樹木管理作業が中心で、法人運営の八事業所を受け持っています。

入居者の方々が、快適に過ごせる環境づくりをと常に意識しながら日々業務に当たっていますが、四季の花々が咲き誇る庭を、利用者が家族と散歩されたり、行事等で、地域住民の方々と一緒にチューリップガーデンを囲んで賑やかに交流している様子は、普段の努力が報われたと、とても嬉しく感じる瞬間です。

今年も七夕用の笹を八本準備致しましたが、利用者の皆さんが「待ってたよー」とばかりに、準備されていた願い事の札をあちらこちらに飾られました。その中の一枚には「歩けますように」と書かれており、自分達もまだまだ現役で頑張らねばと強く思った次第です。

私達は技術的なプロの集団ではありませんが、六人が力を合せて、各事業所の要望にも応えられるよう、毎日の作業が勉強のつもりで今後も頑張つて参ります。



▲私達が「ザ・環境チーム」です

トピックス

盆踊り



「踊りが上手いで賞」の受賞者の皆さんです

平成29年8月19日（土）行われました盆踊り大会が無事終わることができました事、心より感謝申し上げます。

前日の落雷、豪雨から一変、当日は、日中35度の晴天となりました。皆さんの祈りが届いて、多くの方に、ご協力頂き、ご参加頂く事ができましたこと心より感謝申し上げます。

また、今年は、『踊りが上手いで賞』には、実習を行った愛知淑徳大学の3人が見事受賞され『盆踊りがこんなに楽しいとは知りませんでした』と、受賞の喜びを語られていました。

次年度も、地域の皆さんと共に楽しんで頂けるよう努力して参りたいと存じます。

小学生のための
社会に役立つお仕事体験

▲靴下を履きやすくする自助具づくり

サンビレッジ岐阜では夏休みの特別企画として小学生のための社会に役立つお仕事体験が開催されました。

3回目となる今年は9日間で153名の小学生が参加してくれました。本物の現場に触れた子供たちの顔はキラキラしていました。体験を通じてこのお仕事体験のタイトル通り「社会に役立つことができました!」という達成感を味わって頂けたのではないかと思います。そして受け入れ側も体験内容を工夫し、パワーアップしています。10月のシティタワー10周年記念企画では、お仕事体験の写真展を開催予定です。

ぜひ子供たちの活躍ぶりを見に来てください。